

はじめに

鹿児島県 NIE 研究会会長 新納 雅樹

平成 28 年度研究報告書第 12 号が刊行される運びとなりました。実践報告や大会報告書を寄せていただいた先生方並びに編集に携わっていただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、文部科学省は、世界のリーダーになるような人材を輩出するため高校、大学の教育改革を急速に進めようとしており、これまでの改革の中で最も大きな改革になろうとしています。2019 年度にセンター試験を廃止し、2019 年度から高校基礎学力テストを、2020 年度から大学入学希望者学力評価テストを実施し、2 次の各大学による個別試験では小論文や面接、集団討論、部活動や課外活動の記録など、高校時代にどのような経験をしたかを重視したり、「記述式」や「論述式」などの問題形式にするように提言しています。つまりこれからは「知識」や「技能」だけでなくそれらを活用した「思考力」「判断力」「表現力」など応用力を入試において重視するとともに、これらの能力を持った人材を育成していくということなのです。

このような状況の中で、我々教員は、「知識」「技能」を伝授するだけでなく、授業の中で「思考力」「判断力」「表現力」などの応用力を養う場を設けていく必要がでてきます。これがアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）ですが、このアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）に N I E はまさに最適であると考えます。新聞を読ませることで、若者の活字離れを防ぐと同時に、新聞の中のさまざまなジャンルの情報が知識として入り、記事を読んでどう考えたか発表したり、また各紙を比較して記事の取り上げ方の違いを議論したり、自分の興味関心のある記事についてスクラップしたり、感想や意見を文章にしたりと、まさに、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）そのものです。さらに、将来、子どもたちが、グローバル社会で活躍していけるような人材に育てていくためには、かねてから、国内や国際情勢を、積極的に吸収する姿勢を身に付けさせることが大切です。また、18 歳選挙権で若者が政治に参加する機会が早くなりました。政治に興味関心を持ち、選挙の時には必ず棄権せずに、選挙に行くという公民権意識を持たせることも重要になりました。これらのことすべてに、N I E は最適であると考えます。

現在、新聞購読しない家庭が少しずつ増えてきていますが、これはゆゆしき状況です。子どもたちのスマートホン普及率は高く、高校生は 90% を越えました。スマートホンに関わる犯罪に巻き込まれたり、依存症になっている生徒も増えています。スマートホンでゲームや SNS に時間を費やすだけでなく、家庭や学校図書館等にある新聞を、毎日必ず読んだりながめたりする習慣や、スマートホンからも新聞を読めるということ、N I E を通じて教えていく必要があります。そのような観点から、これからますます N I E の重要性が増していく時代になるのではないのでしょうか。

この報告書が、各学校の N I E 活動を広げる原動力になってくれれば幸いです。

